資料３

第１回小野路・小山田ドリームミーティング実施報告書

企画名	第１回小野路・小山田ドリームミーティング
企画の狙い・目的	・小野路、小山田両地区の住民の想いや夢を引き出し、プロジェクトを住民たちで作り上げ、主体性を持った地域運営を行うきっかけをつくる。
開催日時	小山田地区　2018 年 1 月 20 日（土）　15：00～17：00 小野路地区　2018 年 1 月 20 日（土）　18：00～20：00
開催場所	小山田地区　忠生市民センター会議室 小野路地区　小野路公会堂
実施体制	○担当ファシリテーター　J-doc company（影山貴大、植竹智央） ○行政職員：町田市経済観光部北部丘陵整備課（小林課長、福田担当係長、中川担当係長、澤潟主任、山口主任、浅場主事） ○オブザーバー 小山田：町田市経済観光部産業観光課（中村担当課長、高橋主任）、 町田市市民部市民協働推進課（中坪課長） 小野路：NPO 法人市民プロデュース（平田隆之）
参加者数	小山田：42 名 小野路：14 名
実施内容	○実施の流れ ・前日までの準備…1 月初旬打合せ ・14（17）：30　受付開始 ・15（18）：00　開会、趣旨説明、講師紹介 ・15（18）：15　アイスブレイク（共通点探しゲーム） ・15（18）：20　小講義「人とのつながりの重要性」　影山貴大 ※国立社会保障・人口問題研究所等データ抜粋 ・15（18）：50　休憩 ・16（19）：00　グループワーク説明 ・16（19）：05　グループワーク①　理想の小山田・小野路 ・16（19）：20　グループワーク②　小山田・小野路の現状と課題 ・16（19）：35　グループワーク③　現状から理想に繋げるための施策 ・16（19）：50　各テーブルの施策にコメント ・16（19）：55　次回開催告知 ・17（20）：00　終了 ※（）内が小野路、（）外が小山田
成　果	・参加者が自分の住んでいる地域に目を向けること、地元の地域課題や施策を発表する機会を提供することができた。 　また問題意識を掲げているのは、自分だけではなくほかの住民も同じであるという意識を持たせることで、今後も自分の地域について考えるきっかけを作ることができた。 ・次回開催する興味のある施策について全体で共有したため、参加者が関心を持つしかけを行うことができた。 ・各地域の民間企業や高齢者支援センター等が参加し、一般市民のみならず多様な主体間との対話の場が設定できた。

改善点・今後の課題	・グループワーク時のグランドルールを参加者の目の届く場所に掲示し、高齢者でも目に入るようにする（配布資料とするなど）。 ・ホワイトボードが後ろの人からは遠いため、字を大きくするなどの工夫をする。 ・一人の参加者が思っていたものと違ったためか小講義後に、帰宅してしまったので、もう少しどういったことを行うのかを告知の際に含める必要性がある。 ・小山田と小野路間のインターバルが短く、オペレーションが厳しかった。もう少し余裕を持った開催時間を検討していきたい。
実施の様子 **小山田** **小野路**	
主な意見	ワークショップで出た施策の中で、コメントが多かったもの（太字はグルーピングのテーマ） 【小山田】 ・**交流**： 交流拠点をつくる、外部の人を受け入れる雰囲気づくり　etc.. →*早く作れるといいな、交流会、ぜひ、いいね、交流の場* ・**行政（人―議員の力）**：議員を送り出す。国会議員を送り出す。街の力、議員の活用 →*わかります、市議会議員をぜひ、ぜひ、Good、町内会の団結大事* ・**憩いの場をつくる**：居酒屋をつくる。足湯をつくる。 →*歩いてのみに行ける最高。歩いて飲みにいける場最高です。ほしい、歩いていきたいね* 【小野路】 ・**機関との連携**：学校と自治体との交流。地域の大学等とコラボして対策を練る。 →*若者は大事、良、学生はいいですね、学校は多いので連携を図っていけたらいいと思います* ・**地元活動**：若い世代の人を呼び込む活動。一人ではなく地域の人と少しでも話し合う。 etc.. →*定期的な会をしたい、地元民の知恵を！　地元の人の知恵を活用したい、地域連携* ・**人材をつくる**：ビジネスをつくる。若者を呼ぶ。個人個人の自立。大胆な行動。若い人の参加。様々な場面でのコーディネート。 →*作りましょう、地元ビジネスの新しい可能性あり、大胆な方法を探しましょう、いいと思う、お金儲けがあると人は集まると思う、イイ* 　**行政**：行政と市民との交流システムをつくる(行政の協力が必要)。官民含めて同じ意識を持つ →*賛成、自分も期待します、イイネ！　イイです*